

スペイン画家と交流

日南市の
福祉事業所



スペイン人画家夫婦（右2人）と一緒に絵を描くなどして交流した「ひなこみち」の利用者

国際的に活動するスペインの画家夫婦が11日、NPO法人風笛（高橋潤代表）運営の福祉サービス事業所「ひなこみち」へ日南市吾田東へを訪れた。障害がある同事業所の利用者たちと共に絵を描き、会話を楽しむなど交流した。訪れたのは、スペインでは名が知られ、日本でも人気がある、フランシスコ・ボッシュ（65）、ピラー・テル（63）さん夫婦。ボッシュさんはパステル画で風景画を中心に描き、テルさんは油彩中心で女性やネコなどを温かく表現する作風という。

同市で14日まで開く、チャリティー企画「現代国際巨匠絵画展」（ひなこみちチャリティー絵画展実行委主催）に合わせ、初めて日南を訪問。この日の交流には、利用者13人と職員ら計20人ほどが参加。利用者たちがあらかじめ模造紙とボードに描いた果物の輪の中に、ボッシュさんがスペインの田舎町、テルさんがかわいい2匹のネコを描いた。また作業中、夫婦と利用者が、スペインについて知っていることや、日南の印象を通訳を介して会話していた。

ボッシュさんは「日南は自然豊かで、地域のひととの触れ合いも楽しかった」と笑顔。利用者で同市平野の吉原渚さん（29）は「2人の絵に感動した。絵を描きたい意欲が湧いた」と満足そうだった。

絵画展は同市園田のテクノセンターで午前10時～午後6時開催。2人のほか、ピカソのリトグラフや日本人画家の絵画など120点ほどが並び販売もする。入場無料。会期中、夫婦のサイン会も行う。益金の一部は震災支援や同NPO法人の運営費に充てる。